

JENESYS 日本・シンガポール社会福祉交流（招へいプログラム）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】社会福祉を専攻しているシンガポールの学生が、2026年1月20日～27日の間、少子高齢化をテーマに訪日しました。日本の高齢化対策、幼児教育、引きこもり対策、福祉ロボット等の最先端技術に関する取り組みを視察することで、日本の社会福祉の取り組みについての理解を深め、同分野での関係者間ネットワークを構築することを目的に実施しました。

【参加者】シンガポールの高校生・専門学校生 5 名及び引率者 1 名 合計 6 名

【訪問地】東京都 6 名、北海道 6 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）:

1月13日（火曜日） 【日本理解講義】「日本の社会と文化」
講師：JICE 日本理解講義講師 アンドラディ 久美 氏
【来日前オリエンテーション】
来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「日本理解講義」「ホームビジット体験」「南三陸町からのメッセージ」「日本文化理解（京都）」「日本語」

■ 招へいプログラム:

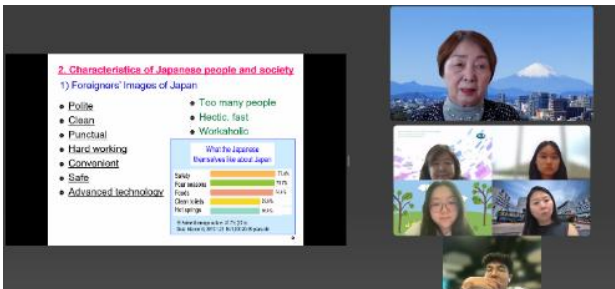
2026 年

1月20日（火曜日） 羽田空港より入国
【来日時オリエンテーション】
【テーマ関連視察】深川えんみち（複合型福祉施設）
1月21日（水曜日） 【テーマ関連講義・視察】
社会福祉法人善光会 サンタフェガーデンヒルズ（複合型福祉施設）
【視察】浅草
東京都から北海道へ移動
1月22日（木曜日） 【テーマ関連講義・視察】函館市保健福祉部講義・施設見学
「少子高齢化社会における共生のまちづくり」
講師：函館市保健福祉部地域福祉課
伊藤 寛 課長
山田 清香 主査
【文化体験】茶道体験
【学校交流】北海道教育大学 附属函館中学校
【視察】函館市西部地区散策・函館山（夜景観賞）

- 1月23日（金曜日） 【文化体験】書道体験
 【テーマ関連講義】「地域食堂「まんまる」（子ども食堂）の活動について」
 講師：高橋 佑実 氏
 【ホストファミリー対面式】
- 1月24日（土曜日） 【ホームステイ】
- 1月25日（日曜日） 【ホームステイ】
 【ホストファミリー歓送会】
 北海道から東京都へ移動
- 1月26日（月曜日） 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、SNS 発信状況等確認、
 帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
 【視察】明治神宮
 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
- 1月27日（火曜日） 羽田空港より出国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
2026 年 1 月 13 日【日本理解講義】	2026 年 1 月 13 日【来日前オリエンテーション】

招へいプログラム

	
2026 年 1 月 20 日【来日時オリエンテーション】	2026 年 1 月 20 日【テーマ関連視察】 深川 えんみち



2026 年 1 月 21 日【テーマ関連講義・視察】
サンタフェガーデンヒルズ



2026 年 1 月 21 日【テーマ関連講義・視察】
函館市保健福祉部



2026 年 1 月 21 日【学校交流】北海道教育大学附
属函館中学校



2026 年 1 月 23 日【文化体験】書道体験



2026 年 1 月 23 日【テーマ関連講義】「地域食堂
「まんまる」(子ども食堂)の活動について」



2026 年 1 月 23 日【ホストファミリー対面式】



2026 年 1 月 24 日【ホームステイ】



2026 年 1 月 25 日【ホストファミリー歓送会】

	
2026 年 1 月 26 日【報告会】	2026 年 1 月 26 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 高校生

ホームステイはとても良い思い出になりました。ホストファミリーは大変親切で、ホームステイの間、日本の文化や伝統を楽しく体験させていただきました。また（中学校との）学校交流では、温かく迎え入れていただいた学校の雰囲気と授業の内容に驚き、忘れがたいものとなりました。

◆ 高校生

様々な福祉施設で、多くのことを学ぶことができました。日本の福祉分野への技術の活用方法を学び、大変興味深く、その内容に驚きました。また、ホームステイでは日本の家族と一緒に過ごす体験を通して大いに楽しむことができ、ホストのご両親にはとても温かく迎え入れていただきました。

◆ 高校生

印象に残ったことの一つ目は、ホームステイで、三家族とも大変素晴らしく、私たちに対し思いやりを持って接していただき、皆さんにとても温かく迎え入れていただきました。私のホストファミリーはとてもご親切で、日本とシンガポールについて多くのことを語り合い、大変忘れがたい思い出になったので、きっとまた函館に戻ってこようと思いました。

二つ目は、社会福祉施設への訪問で、子どもからお年寄りまで一緒になって地域の皆で支え合うという考えが広く行き渡っており、非常に驚きました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 視察先関係者

参加者一人ひとりが、私たちのテクノロジーを活用した介護の取り組みに対して非常に高い関心を持ってくださっていたことが強く印象に残っています。説明を行うたびに前向きなリアクションや積極的なご質問があり、スタッフにとっても大きな手応えを感じられる時間となりました。ご案内する側としても、皆様の反応の良さに後押しされ、楽しみながら具体的な活用イメージまで踏み込んでお伝えすることができたと感じています。

本プログラムを通じて、介護現場におけるテクノロジー活用の可能性や日本での実践事例が、参加者の皆様にとって現実的な選択肢の一つとして受け止めていただけたことは大きな成果の一つです。また、単なる見学にとどまらず、学生さんならではの視点で質疑応答ができたことで、双方にとって学びの多い大変有意義な機会となりました。

今回の視察で得られた気づきや学びが、今後シンガポールでの介護の質の向上や、介護に関するテクノロジー活用の推進に何らかの形で活かされていくことを心より期待しております。

◆ 視察先関係者

参加者との交流を通じてシンガポールを身近に感じることができました。

また、こちらからの質問にも丁寧に答えてくれ、シンガポールの地域社会や地域コミュニティの現状を聞くことができ、自身の業務の参考になりました。

◆ 交流校生徒

シンガポールの方々が通っている学校について紹介をしてくださったとき、多くの学科があることやたくさんの人々がそこに通っていることに驚きました。改めて考えてみると国が違くと学校の仕組みが異なる点があると感じました。シンガポールの方々はとてもフレンドリーで接しやすい印象でした。今回の交流授業でボードゲームをしたとき、言語は違えど、何かを通じて一緒に楽しむことができるのだと感じました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2026 年 1 月 26 日（Instagram） 専門学校生 1 月 20 日、私たちは深川えんみちを訪れました。そこは福祉施設のイメージを大きく変える場所でした。一般的な施設のような「作られた空間」という感じはなく、まるで地域の一部のように感じられました。特に印象的だったのは、意図的に多世代が共存するように設計されていることです。 1 階の高齢者向けデイサービスと、2 階の放課後児童クラブや子育て支援は別々に分かれていますのではなく、共有スペースで自然に一緒になっています。建物の外でも、高齢者と子どもたちが互いに顔を覚え、声をかけ合っている様子を見ると、コミュニティという概念が本当に現実のものとして	2026 年 1 月 26 日（Instagram） 専門学校生 2026 年 1 月 22 日、私たちは北海道函館市のご高齢の方々のための施設を訪れる機会を得て、函館市保健福祉課の方々から講義を受けました。ご高齢の方々から若者まで函館市が直面する社会福祉の課題について学び、それらの課題解決のための取り組みを理解することができました。 函館市の高齢者福祉センターが取り組みの一例です。そこでは伝統的な茶道や温泉の活動を通じてその地域で暮らす人々との関わりを深めることで、全体的な生活の質の向上につながっています。また、ご高齢の方々が慢性疾患についての理解を深められるよう、健康に関する相談もできます。

感じられました。

また、この空間が時間帯によって多目的に使われていることにも感銘を受けました。子どもたちのケア、児童の活動、読書会など、一日の中で時間帯によって機能が変わるため、建物は常に最大限に活用されています。それでいて堅苦しさや過度な管理感はなく、騒音に対しても寛容で、妊婦さんから育休中の父親まで、誰もが歓迎されている雰囲気でした。

再利用された神社の瓦や、子どもと親と一緒に何年もかけて作った庭など、細部まで考え抜かれた計画性が感じられました。東京のような密集した都市で、深川えんみちは、世代を統合することが単に効率的なだけでなく、日常生活をより温かく、意味のあるものにし、持続可能にすることを教えてくれました。

最終的に、地域のつながりや助け合いの精神が社会福祉をより良くするために大切だと学びました。



2026 年 1 月 26 日 (Instagram)

専門学校生

函館の魅力あふれる港町で、私は伝統的な日本の書道教室に没頭しました。雪景色に囲まれた静かなひとときでした。私たちの講師は穏やかな口調の師匠で、まず墨の準備について教えてくださいました。固形の墨（墨棒）を石の硯に水を垂らして円を描くように磨り、なめらかな黒い液体に変わるまで磨るのです。この行程は忍耐と心の静けさを象徴しています。

2026 年 1 月 26 日 (Instagram)

専門学校生

地域食堂「まんまる食堂」への訪問は、私にとって驚くべき体験でした。私は、将来幼稚園の教員を目指しているため、地域と人々のための活動に心を打たれました。講義を通じて、まんまる食堂に参加する人たちは皆対等で、人に助けられるばかりでなく人を助けることもできるということを学びました。この理念を通じて、地域の人々の交流が活発になっています。

次に、イタチや馬の毛で作られた筆を使って練習しました。柔らかい山羊の毛は流れるような表現豊かな線に、硬めのアナグマの毛は力強い正確な線に適しています。筆を垂直に持ち、基本の筆遣いを学びました。横線は安定感、縦線は力強さ、点は集中力、鉤（はね）は動的なエネルギーを表します。それぞれの筆使いには深い意味があり、滑らかな曲線は調和を、しっかりとした押さえは強さを示します。

最後に「感謝」という二文字を書きました。この言葉は感情を表す曲線と点のバランスをとる第一文字と、「ありがとう」の気持ちを表す第二文字から成っています。この体験を通じて、一筆一筆に技術と哲学を融合させたこの芸術の瞑想的な本質をより深く味わうことができました。

紹介された取り組みで、幼児の発達と保育に関する学びに通じると感じたのは、じゅんかん食堂（命のサイクル）で、子どもも大人も地域の人々が一緒になって植物を植え、収穫し、調理し、残ったものをたい肥として利用し、また野菜を育てるということです。教育者として、子どもたちに植物のサイクルを教え、自分たちが育てる植物や野菜に責任をもってお世話をすることを教えることができる素晴らしい活動だと思いました。



2026 年 1 月 29 日（北海道国際交流センターの Instagram）

対日理解促進交流プログラム「JENESYS」
雪を初めて見て大興奮、中学生とゲームで交流、書道体験、お寺で子ども食堂の勉強、かまくら遊び、そしてホストファミリーと素敵な時間を過ごしました。

2026 年 1 月 24 日（北海道教育大学 附属函館中学校のウェブサイト）

北海道新聞（令和 8 年 1 月 24 日）に、本校 2 年生が 1 月 22 日（木）に行った英語科の授業の様子が紹介されました。外務省の対日理解促進交流プログラム「JENESYS」日本・シンガポール社会福祉交流（招へいプログラム）の一環として、シンガポールの学生 5 名・引率者 1 名らが来校。それぞれ自己紹介や自国の文化の紹介などを行いました。記事には「シンガポールの学生来訪」、「函館の文化 すごろくで紹介」との見出しで、授業中の写真や、授業後の生徒たちのコメントなどが紹介されています。



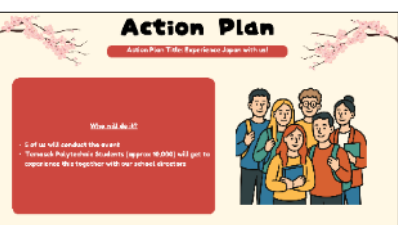
2026 年 3 月 4 日 (社会福祉法人善光会のウェブサイト)

「外務省 対日理解促進交流プログラム JENESYS 社会福祉を学習するシンガポールの学生が訪問」

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、北海道 全 1 グループ発表







【成果の発表】

◆ 訪日中の学び

訪日前、私たちは、日本にはラーメン・抹茶・寿司などのおいしい食べ物がたくさんあり、渋谷や大阪、富士山といった観光地が豊富だという印象を持っていました。また、日本人は礼儀正しく、控えめな人が多いというイメージもありました。

実際に訪れてみると、礼儀正しさは、形式的なお辞儀や挨拶だけでなく、温かいもてなしや柔軟な気配りにまで及んでおり、まるで家族のように迎えてもらいました。保守的で真面目だと思っていた日本人にはユーモアがあり、打ち解けると冗談を交えて場を和ませてくれました。さらに、身振りの丁寧さや茶道の所作などから、細部へのこだわりが文化として根づいていることがわかりました。ホームステイ先の家族は、食事や訪れたい場所を私たちの希望に合わせて準備してくれるなど、思いやりの深さが印象的でした。食事は事前に期待していた以上においしく、味だけでなく盛り付けや手間に込められた心づかいにも感動しました。

◆ 社会福祉についての学び

来日前、日本の社会的支援は、主に経済的支援や医療サービス、高齢者施設を中心に構成されていると考えていました。しかし実際に訪れてみると、さまざまな分野を組み合わせた幅広い社会的支援が展開されており、その豊富さに驚かされました。

特に印象的だったのは、支援ネットワークや支援の導線に複数のテーマが組み込まれ、相互に補完し合っていたことです。コミュニティの重視はその象徴で、函館のまんまる食堂やホームステイでの経験を通じて、個人が自分らしくいられ、頼り合いと支え合いが循環する居場所づくりが丁寧に実践されていることを学びました。

また、テクノロジーの先進的な活用も目を引きました。善光会での講義・視察では、介護ロボットやデジタル管理システムなどの導入により、介護者の負担を大きく軽減しつつ、利用者の生活の質を向上する仕組みが整えられていることを理解することができました。

そして最後に、多様な背景を持つ人々が集まって経験や悩みを共有できる社会的交流の場が整備されており、孤立の予防と日常の社会的・健康的な活動の維持に社会福祉が大きく寄与していることも目を見張るような学びでした。

【アクション・プラン】

「Experience Japan with Us! 一緒に日本を体験しよう！」

学生を対象に、日本文化への理解を深めてもらうことを目的としたイベントを企画します。

イベントでは、以下の三つの体験プログラムを実施します。

①着物展示ブース

着物型の展示ボードに書道や食文化、社会施設訪問などの写真を掲示し、メンバーが学生に体験を紹介します。また、訪日中の動画も上映し、プログラムの様子を視覚的に伝えます。

②粘土寿司づくり体験

紙粘土を使って寿司型のキーホルダーを制作し、イベントに参加してくれた人が記念品として持ち帰れるようにします。

③茶道体験

日本での茶道体験をもとに、学生が抹茶を点てる機会を提供します。本格的な茶器を使用しながら、伝統文化の雰囲気を感じられる内容を目指します。

イベント開催に向けて、展示ボードや茶器、粘土などの資材を準備し、事前にブースづくりや確認作業を進めます。また、SNSを活用し、活動紹介や準備の様子を発信して学生の関心を高める予定です。イベント後にはSNSで振り返り投稿を行い、成果を共有します。

日本文化に親しみ、多様な価値観に触れることで、学生たちの異文化理解の一助となることを目指します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）